

平成 26 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 城 内・琴ノ浦 高等学校

平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]

【教育目標】 校訓「自律・創造・協力」の精神のもと、地域に根ざした学校づくり、地域に貢献できる生徒の育成をめざす。

【学校経営の重点】 ○生徒一人ひとりに応じた「学び直し」 ○社会の一員であることを意識した積極的な「生徒指導」
○自己実現に向けて努力する「キャリア教育」

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	2.9
取組とその成果	課題と改善策	
① 拡大学年会議での情報交換の充実 → 拡大学年会議はさまざまな角度からの生徒理解に非常に有効である。 ② 習熟度別やIT、少人数制授業の採用 ③ 全生徒による全教員に対する授業評価の実施 ④ 授業公開週間の設定 ⑤ 研究授業合評会の実施→ベテラン教員の授業合評会を行い、大変参考になった。 ⑥ 夏休みに近隣の小学生を招待した本校でのサマースクール。 → 校種間連携の授業により、発達段階の違う子どもたちに触れ、本校教師の視野は広がる。 ⑦ 特別支援が必要な生徒の把握と共通理解を図る学習会の実施。 ⑧ 特別支援教育に関する職員研修の実施。→ 生徒に対する理解が深まり、指導力向上の一助となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学の習熟度別の導入を検討する。 ・ 授業公開週間は行事との並列を避け、見学しやすくする。 ・ まだ特別支援に対する理解が不十分。研修をこれまで以上に充実するとともに、特別支援教育経験者の人材確保を図る。 ・ 中学校から高校への引き継ぎを確実に円滑に行うため、新たに「中高連携シート」を作成し、生徒の状況について中学校側に事前記入してもらう。 ・ 研修は講演会だけでなく、実地の勉強会を企画し、生徒の事例から具体的に対応策を検討する。 ・ パソコン教室に導入した復習ソフトを活用し、個人学習ができるようにする。 ・ 家庭との連携を密にし、生徒の遅刻欠席を未然に防止して学習の継続を図り、学業を放棄させない取り組みを検討する。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3.0
取組とその成果	課題と改善策	
① いじめアンケートの実施とその結果に関する全職員の共通理解を図る。→ 生徒のいじめに対する問題意識も高まり、奏功している。また、いじめに対する体制ができ、問題の拡大化を未然に防ぐこともできている。 ② 県下一斉募金活動に参加→ 奉仕の精神や思いやりの心を育てるのにより機会となった。 ③ 授業集中強化週間の実施 ④ 年5回の生徒面談週間の実施 → 授業を大切にし、基本的な生活習慣確立の大切さへの理解が深まる。 ⑤ 全生徒に対する家庭訪問による保護者との連携強化 → 生徒に接する機会は面談や家庭訪問などで確保できている。 ⑥ 登下校時、給食時の当番制とその教員の生徒への声かけの励行 → 生徒と教員との関係性の構築が図れている。 ⑦ 学校カウンセラーの適宜活用→ 個別相談により悩みの解消につながっている。 ⑧ 建設サマーセミナー・自衛隊体験入隊・保育園ボランティアの実施→ 参加した生徒には、学校ではできない貴重な体験となった。 ⑨ 面接練習、ステップアップの充実 ⑩ 全校一斉一般常識テストの実施 → 生徒の進路実現に向けた基礎固めができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般常識テストに対する意義付けを行い、しっかり取り組ませる。 ・ 授業集中強化週間では2学期以降生徒が遅刻しても保護者に連絡しない担任が増えた。遅刻しなかった生徒を表彰するなどの発想の転換も必要である。 ・ 体験活動、就業活動、ボランティア活動等に係る教育活動を高等学校における科目の履修とみなすための研究を継続的に行うとともに、校内での実践に取り組む。 ・ サマーセミナー等、社会参加型が重要と思う。今後も拡大できる方法で考えたい。 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.0	3.0

取組とその成果	課題と改善策
①食事のマナーや後片付けの指導 ②給食便りの充実 ③給食アンケートの実施と食育教育の充実 →食事の大切さへの理解を深め、健康面をサポートできている。 ④体育の授業を行う場所の工夫 →工事期間中も可能な限りの運動に取り組めた。	・学校給食を残す生徒、食べない生徒に食育の観点から指導を行う。 ・学年の教師が生徒と同じ場所で給食をとり、食育とマナー指導の徹底を図る。 ・部活動を奨励し、心身ともに健康な生徒を育てる。 ・部活動の数を精選するとともに、「部活動の活性化」を次年度の学校目標に掲げる。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.3	3.5

取組とその成果	課題と改善策
①職員の立ち番、登下校指導の実施 →立ち番や巡視体制が確立されている。 ②学校安全点検の実施 ③外部講師による自転車安全教室の実施 →自転車通学生が多いので、生徒の安全意識の向上に役立っている。 ④防災マニュアル等を毎年改善 ⑤年に2回の防災避難訓練の実施 ⑥1/17日に行う「震災追悼行事」	・自転車の事故が多い。スマホや音楽を聴きながらの登下校禁止の徹底を図るなど、より実践的な安全教育が必要。また、事故が起こった時の対応を詳しく教える必要がある。 ・地域とともに行う地域のための防災避難訓練をさらに充実させ、防災資機材や食料の備蓄についても今後考えていく。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.3	3.5

取組とその成果	課題と改善策
①学校自己評価・生徒による授業評価等、4種類の評価アンケートの実施とホームページでの結果公開 →学校に関する情報を包み隠さず公開することで、課題も浮き彫りになるが、保護者からの信頼も獲得できている。 ②前本校事務長を招いたPTA対象の「陶芸教室」の実施 ③各学年だよりの定期的発行 →HPの更新がペースアップしたり、学年だよりが定期化し、タイムリーな情報を保護者等に提供できている。 ④学校評議員会の年2回実施 ⑤評価育成システムにおける面談の複数回実施	・更新されている学校のホームページを生徒たちも見るように情宣活動を行う。 ・携帯から本校のHPが閲覧できるような取組を行う(尼崎市の規約改正を含む)。 ・保護者・生徒・教員での地域貢献活動を更に推進する。 ・市制百周年記念事業に向けた取り組みの検討。

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.8

取組とその成果	課題と改善策
<p>①生徒一人ひとりに応じた「学び直し」のために、ベーシック国語やベーシック数学など、基礎固めに重点を置いた学校設定科目を配置している。</p> <p>②社会の一員であることを意識した積極的な「生徒指導」の実現に向けて、積極的な声かけ・面談週間の設置・家庭訪問等を実施している。 →問題行動が起こったときでも、学年と生徒指導部、管理職が一体となって対応することができている。</p> <p>③自己実現に向けて努力する「キャリア教育」の活性化に向けて、本年度は自衛隊への体験入隊・外部講師による「身だしなみセミナー」等の新たな取り組みを行うとともに、進路通信も積極的に発行している。 →進路指導部を中心にいろいろな新しい取り組みが行われるようになり、「キャリア教育」は確実に前進している。</p> <p>④各学年、毎週月曜日の学年会の定例化 →先週のクラスでの出来事や生徒指導など振り返りができて、学年内で共通理解が深まった。また、その週の委員会・会議など学年としての課題が明らかにできた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の情報共有が十分にはできていない。今後月1、2回学年主任会議の実施を検討する。 ・人間関係を形成する能力を育てることが必要。そのために、異学年との連携した学びを検討する。 ・本校の教育目標や今年度の重点目標を分かりやすいキャッチフレーズの形で、職員室等に掲示するようにする。 ・進路の行事を精選し、系統立てて実施する。

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.8

取組とその成果	課題と改善策
<p>①新校舎設立に伴う学校組織及び運営の研究</p> <p>②地域コミュニティ活動の研究 →中央地域振興センターと連携した地域コミュニティ活動が行えるようになってきた。</p> <p>③基礎学力向上と3修制実現のためのモジュール授業のさらなる研究 →モジュール授業の時間数や回数について新たな発想が生まれてきた。中学校時の遅れを取り戻させるのに、少人数制授業やTT、習熟度別授業が効果を発揮している。</p> <p>④第1学年の総合的な学習の運営 →第1学年の総合的な学習はしっかりとした成果を上げており、生徒の進路意識が深まっている。</p> <p>⑤生徒の能力、適性、進路に対応する教育課程のあり方の研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎が完成したが、教室数が十分ではない。3修制の授業、選択授業、習熟度別授業などクラス編成や授業形態の見直しが必要。 ・効率的に運営ができ、さらに生徒に適したモジュール授業のあり方を職員会議等を通じて、話し合う。 ・総合的な学習の時間の評価方法について、より有効な評価方法を検討する必要がある。 ・中央地域振興センターとの連携を一層強め、参加する行事数を増やすなど、地域コミュニティ活動をさらに充実させていく。

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 教室環境や学校全体の環境がすばらしい。生徒も自然に学習意欲が出てきて向上すると思う。 □ 拡大学年会議、習熟度別、TT、少人数制授業、公開授業等々、「教育・学習内容の充実…」のための努力をされている。それが生徒による「授業評価」に表れています。今後の課題として、特別支援に対する理解が不十分とあるので、更なる取り組みを期待します。 □ 全生徒による全教員に対する授業評価を実施することは、生徒との関係がよいからこそできることだと思う。 □ 授業公開週間を設定することは、開かれた学校づくりだけでなく、学級経営・学校運営等につながりよい。 □ 夏休みに明城小の児童を招待したサマースクールは、まさに「連携」へとつながる素晴らしい取り組みである。 □ 習熟度別やTT、少人数制授業において着実に基礎学力向上につながっているように思われる。 	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 先生と生徒のコミュニケーションにより、生徒の信頼度も高まると思います。これからも続けて下さいますようお願いいたします。 □ いじめに対する教師の姿勢が生徒の問題意識を高め、問題の拡大化を未然に防ぐなどの成果も出ているようです。また年5回の生徒面談や家庭訪問など、個々の生徒に対する理解を深める努力もされているようです。 □ 生徒会活動も、生徒の自主性、自立性を高めるという意味において、この「項」で評価してはどうでしょうか。 □ 様々な環境の生徒が在籍する中で、いじめアンケートを実施し、全職員で共通理解を行っていることはよい。 □ 全生徒への家庭訪問を実施しているということは、校区が広い中で保護者との連携になりよい。 □ 先生と生徒とのコミュニケーションが大事である。互いが信頼し合えるよう今後も取り組んでいってほしい。 	3.5
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 子どもの成長において食事は大切な事。バランスの取れた食事が出来て、生徒の皆様は幸せだと思います。 □ 食堂も新しくなり広くきれいな所で食事が出来るのは良い事だと想います。体育祭、先生達も生徒の皆さんも頑張っておられました。楽しかったです。 □ 完全給食の本校でしかできない給食を、食育という観点からとらえ指導されています。本校の特色の一つだと思います。 □ 体育についても、工事中にも係わらず運動に取り組む努力をされたようです。 □ 給食は活かした教材なので、活用されていることがよい。 □ 食生活が乱れがちな昨今である。学校給食を通して食育の観点から指導の充実に期待します。 	3.5
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地域の独居の安否確認をして貰っているお陰で老人の不安が少しでも和らいで安心して生活しておられます。 □ 毎年どこかで災害出しています。皆で助け合いの気持ちを忘れないようにしたいと思います。 □ 自転車通学時の安全教育や、先生方の立ち番、巡回体制などよく取り組んでおられます。 □ 年2回の防災訓練や、1/17の「震災追悼行事」などを通じて、阪神や東日本の震災の教訓を引き継ぐという視点も大切だと思うので、今後も更に充実されることを期待します。 □ 職員が立番や登下校指導の実施はよい。 □ 尼崎市全域で自転車による事故が多発している。事故を起こさないため実践的な安全教育が必要。また事故が起こった時の対応を教える必要もある。 	3.7

<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学校職員の意気込みが伝わって来ます。 □ 情報公開、学年たよりの定期発行などで保護者の信頼も獲得できているようです。 □ 地域との関係では、「補助資料の地域の項では評価が3.0」になっていますし、昨年同様の活動が継続されていると思いますので、評価したいと思います。 □ ホームページの更新は、いつでも見ることができるのでよい。 □ 保護者・生徒・教員での地域貢献活動はとても意欲と姿勢が伝わってくる。引き続き取り組んでほしい。 	3.8
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「学び直し」のために取り組む視点は、勉強＝学習のためだけでなく、「学級」をつくるうえでも大切な視点だと思えます。 □ 新しくなった教師集団も連携が強まっているように感じます。今後の課題として、「学年間の情報共有が不十分」とあるので、更なる努力を期待しています。 □ 学校が組織で運営されていることがよくわかった。 □ 基礎学力の向上や社会性の認識を深める教育に大変努力され取り組んでいる。 	3.6
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 門外漢なのでよく判りませんが、新しい学校での様々な取り組みから研究をよくやられていると思います。「がんばれ先生方」という思いです。 □ 生徒の学力向上や基本的な生活習慣を確保することは、自己の確立につながりよい。 □ 新設高校において教育内容だけでなく学校組織や運営、また地域コミュニティ活動に大変頑張っておられると思う。 	3.2
<p>■</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 運動会を見学させて頂きとても感動しました。学校の運動会で校長先生が色々な競技に出場されてとても微笑ましかったことはとても良い事です。 	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
<p>アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か</p>	<p>A</p>
<p>自己評価の結果の内容は適切か</p>	<p>A</p>
<p>自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か</p>	<p>A</p>